農村地域における地域資源活用からみた住民参画の様態に関する研究

A STUDY ON ATTITUDE OF THE RESIDENTS PARTICIPATION SEEN FROM REGIONAL RESOURCES PRACTICAL USE: A CASE IN A RURAL SETTLEMENT

斎藤 亮司*, 藍澤 宏**
Ryoji SAITO and Hiroshi AIZAWA

The purpose of this study is to detect the way to activate the community management for the active planning of settlement by making use of regional resources, in rural settlement. Then, we studied on each settlement's own way residents in each age group take part in maintaining its regional resources. As a result, to take part in each resident's community management independently by having many parts has an effect on him by making his mind to settle down in his settlement. In conclusion, the important things for active planning of settlement are as follows: To reconfirm the value of the existing regional resources. To considerate carefully for make the best of the regional resources. To make young people and children take part in the community management.

Key words : regional resource , rural settlement , community management , included the inhabitants, leading direction,
地域資源, 農村集落, 地域活動, 住民参画, 誘導方向,

1. 研究の目的と方法

1-1 研究の背景と目的

多くの農村地域においては、地域で維持・保全されてきた伝統技術や伝統行事等の豊富に存在する地域資源を活かし、地域社会における住民の生活を向上させるための地域活動が盛んに行われてきた歴史的経緯がある。そのような地域活動を通して、子供達や若者達に対して役割を与え、地域社会の後継者として育成し、地域社会生活の維持・発展を図ってきた。しかしながら、現在の農村地域社会は、農業生産活動のみならず生活活動の側面においても、集団化から個別化に移行し、地域社会全体で地域活動を実践している地域が少なくなっている。その結果として、地域資源を活用し住民の能動的な地域活動を実践出来ず、住民自身が優位な資源であると自覚認識し、地域の活性化素材として活用している地域は少ない。

この様な状況下では、住民自身が自分達の住む居住環境や住民間の社会関係の状況を把握し、自分達の考えや意見を持ち寄り、現在の地域社会を維持・改善に向けた計画内容を策定し、能動的な地域活動を展開していくことが現在の農村社会にとって重要なこととなっている。また、このことは、住民相互の関係により育まれる社会的な連携能力をより強固なものにさせる重要な要素ともなる。

しかし、高齢化や少子化等により年齢の偏在化が生じ、地域活動

における担い手不足が進行し、更に、市町村行政等の環境管理における社会化により、地域主体で行ってきた環境管理活動の必要性を喪失させ、管理活動を進めながら培ってきた住民間の連帯を高めていた行事も減少してきている。そこで、地域社会を活性化させるための地域資源を適切に維持し保全していくためには、地域活動に対する能動的な住民の参画姿勢が求められており、そのような住民参加の在り方を地域計画の計画要件として整備することが必要である。

そこで本研究では、地域資源の維持・活用に関わる様々な活動に対して、各世代層の住民が如何に参画し、役割を遂行しているかを捉え、地域資源を活用した住民の能動的な活動展開に向けた住民参画の計画要件とその方向性を明らかにすることを目的とする。

既往論文では、地域資源を活用し集落の活性化の誘導方向を求めるため、以下の様な研究が行われてきた。まず、集落毎に地域資源として認識しているものの内容と存在量を捉え、都市近郊から山間地域まで立地条件の異なる集落毎に集落の活性化に向けた地域資源活用の方向性を提示した¹⁾。次に、市町村の行政が地域推奨モデルとして選定した集落と先に求めた一般集落で活用している地域資源の内容と存在量を比較検討し、地域資源活用のレベル差を捉えることで、集落の活性化に向けた資源活用の段階と内容について明らかにした²⁾。更に、中山間地域の特定集落において集落の居住者が実際に、

* 東京工業大学大学院 大学院生・工修

** 東京工業大学文教施設研究開発センター 教授・工博

Graduate Student, Tokyo Institute of Technology, M. Eng.
Prof., Research and Development Center for Educational Facilities, Tokyo Institute of Technology, Dr. Eng.

地域に賦存している地域資源を如何に評価しているかを把握することで、各住民の集落生活³⁾における役割や立場に即した資源評価が成されていることを求めた。しかしながら、既往論文では、集落の立地条件毎に地域資源を活用した誘導の方向性を求めたが、具体的に、集落居住者が如何なる地域資源を利活用し、如何なる方法で地域資源を運用すべきか等の手法を提示することが課題として残っている。また、現在多くの農村地域では、広域的に地域資源を媒介として、隣接する集落等と連携し合い資源を維持・活用している集落も多く見られ、このような地域的な取り組みによる資源活用方法に関しても明らかにする必要がある。そのため、本研究ではその研究の一貫として既に、広域調査を実施し、各集落において集落居住者が地域資源として認識している資源の内容と存在量を捉え、地域資源の賦存状況に影響を与えている集落の立地条件⁴⁾について明らかにし、地域資源の地理的な分布構造を求めた。これを受けて本編では、既往研究の中で地域資源の賦存状況からみた集落の特性として求めた人材資源類型、農業資源類型、活用資源類型、の3つの地域資源の賦存資源類型を集落属性として使用し、地域資源の賦存状況と地域資源を活用した地域活動の実践状況との関係を求め、更に、集落居住者の各世代層の人々が如何なる参画の態度を示しているか、また、地域資源の運用・活用における集落独自の実践的な取り組み方とそこにおける住民の役割分担と後継者育成について捉え、能動的な地域活動実践に向けた集落の誘導方向を明らかにする。

1-2 研究の方法

本研究では、研究の地域単位を、居住者の地域生活に対する意見や考えを収斂させ、様々な地域活動を展開し住民間で組織的な繋がりがある農村集落を対象とし、集落単位に維持・保全されている地域資源の賦存状況を把握するため、既往研究と同様に、地域資源の基本的な枠組みを以下の様に設定した。その内容は、集落計画の課題と成り得る(I)基盤的な資源と、基盤的な資源を活用させ得る集落の環境的・社会的な(II)活用資源である。Iの基盤資源分野では、I-①人材資源、I-②農業資源、IIの活用資源分野では、II-①施設資源、II-②自然環境資源、II-③文化伝統資源、II-④組織資源を設定した。この設定した地域資源毎に、集落環境の向上を目指し、集落主体により実施した生活・生産基盤の整備状況を地域資源の活用状況として位置付ける。

研究の方法として、まず、各集落における地域資源の賦存状況と地域活動の実施状況との関係を明らかにするため、既往研究で求めた人材資源類型(A類型)、農業資源類型(B類型)、活用資源類型(G類型)、のそれぞれの類型毎に、集落独自に行った生活・生産基盤の整備状況と地域活動の実施状況を捉える。

次に、地域資源を活用した地域活動を実践する際に、その計画段階から維持・管理する段階まで住民が如何なる役割で参画しているかを把握する。この集落独自の住民参加の内容と地域資源の活用状況との対応関係を捉え、能動的な地域活動を促進する住民参画の在り方を計画要件として抽出する。

更に、人材資源類型(A類型)、農業資源類型(B類型)、活用資源類型(G類型)、の3つの集落類型毎に、能動的な住民活動の展開に向けた誘導方向を明らかにする。

研究の手順は、第1に、既往研究で求めた地域資源の賦存状況からみた集落の特性として人材資源類型(A類型)、農業資源類型(B

類型)、活用資源類型(G類型)のそれぞれについて、地域資源を活用した地域活動の実施状況との関係を把握する。なお、地域資源を活用した地域活動の実施状況として、生産環境と生活環境のそれぞれにおいて、ハード的な側面での施設・空間整備状況とソフト的な側面での地域活動の実施状況の2側面で捉える。

第2に、全対象集落において地域資源を活用した地域活動の実施状況として設定した全指標を用いて集落の類型化を行う。この区分した地域資源を活用した資源活用類型毎に、地域活動への住民各世代の参画状況と集落独自の取り組み方について捉える。

第3に、人材資源類型(A類型)、農業資源類型(B類型)、活用資源類型(G類型)の3つの地域資源の賦存資源類型毎に地域資源を利活用した能動的な活動展開に向けた方向性を求めるため、それぞれの賦存資源類型と資源活用類型との関係を把握し、計画目標となる集落の選定と誘導方向を明らかにする。

調査対象および調査データは、平成11年10月に青森県十和田三戸地域の1市6町2村の全305集落を対象とし、地域資源を活用した地域活動の実施状況とその活動への住民の参画状況に関するアンケート調査を集落代表者の方を対象に行った。調査地域の9市町村の産業・生活面を支える人口の動態変化と産業別就業人口率を表1に示し、調査の概要を表2に示す。

表1 調査対象地域の概要

市町村名	十和田市	十和田湖町	三戸町	五戸町	田子町	名川町	南部町	倉石村	新郷村
総人口(人)	62,462	6,598	14,398	19,064	8,222	10,304	6,619	3,614	3,866
総面積(km ²)	316.84	372.74	151.55	122.14	242.10	83.45	29.58	55.68	150.85
人口増減率	2.4	-6.4	-4.8	-4.2	-5.2	-4.9	-5.7	-1.9	-6.1
農家数増減率	-9.5	-8.7	-3.2	-7.2	-7.2	-9.3	-5.9	-6.0	-6.1
第1次産業就業人口率	19.5	31.4	35.5	28.3	45.0	40.1	33.4	52.0	56.0
第2次産業就業人口率	26.2	20.0	22.8	31.9	22.6	26.6	22.0	20.3	18.2
第3次産業就業人口率	54.3	48.6	41.7	39.8	32.4	33.3	44.6	27.7	25.8

※ 平成2年版と平成7年版の全国市町村要覧を参照

※ 農家数の増減率は1995年世界農林業センサス集落カードデータを加工

表2 調査の概要

アンケート調査：地域活動の実施状況に関する調査 調査期間 平成11年10月									
配布方法	各市町村の行政担当者から集落代表者(自治会長・町内会長)へ配布								
回収方法	集落代表者から記入して頂いたアンケート調査票を郵送してもらった								
市町村名	十和田市	十和田湖町	三戸町	五戸町	田子町	名川町	南部町	倉石村	新郷村
配布票数	101	36	40	26	33	13	9	26	27
回収率(HI)	46.5	77.8	90.0	96.2	81.8	100.0	100.0	46.2	85.2

2. 地域資源の賦存状況からみた集落類型毎の地域活動の実施状況

既往研究で求めた人材資源類型(A類型)、農業資源類型(B類型)、活用資源類型(G類型)の3つの地域資源の賦存状況を示す集落類型毎に、地域資源を活用した集落独自の実践的な地域活動の実施状況を把握する(表3)。この時、地域活動の実施状況を以下の4つの内容毎に捉える。農業生産活動面に関しては、①集落の基幹農作物の発展に向け農家間で取り組んできた内容と市町村等の各種行政機関の支援状況。生活活動面に関しては、②共有施設・空間整備に対する考え、③自然環境の整備に対する考え、④地域行事に対する考え、の以上3つの側面における地域活動の実践状況を捉える。

2-1 人材資源類型からみた地域活動の実施状況

人材資源類型(A類型)の特徴として、人・世帯の変化が小さく、一時的な帰省者も少ないA1では、高齢者のための行事を多く保有している集落は多いが、伝統芸能を維持できなくなり、復活させたいと考えている集落や農耕儀礼等の行事も減少傾向にある。人・世帯の変化が小さいが、一時的な帰省者の多いA2や離農・離村者の多い

A4では、各分野の地域活動の実践状況として、多くの活動内容において全体の構成比との差があまりない。Uターン者等の多いA3では、生産活動と生活活動の両側面において、能動的な地域活動を実践出来ており、特にお祭に時において、地域の担い手層である若者達を取り込み行事の活性化を図っている。拡大家族も多いが高齢者独居世帯も増加傾向にあるA5では、A3と同様にお祭に時にかから子供や若者に役割を担わせ、更に集落出身者で帰省し、集落で実施しているお祭に参加する人のいる集落が多い。また、自然環境を活かしたハード整備を実施している集落は多いが、施設面での能動的な空間整備を行っている集落は少ない。以上の様に、人口の定住化が促進されている集落の特徴として、自然環境や文化的な資源を活かし、能動的な地域活動を実践している傾向が明らかになった。

2-2 農業資源類型からみた地域活動の実施状況

農業資源類型（B類型）の特徴として、稲作経営型のB1、B2、B5の相違点は、保有労働力が平均的なB1は、地域の文化的な資源である伝統行事を能動的に活用し、更に施設面での空間整備に対しても前向に実践している集落が多数存在している。B2では、生活活動の各側面においてその活用が他の類型に比べ低位である。また、B5は集落の自然環境の維持・保全に対し積極的な活動展開がなされている。この様に、作付け内容が同様な集落間においても地域活動の能動性は大きく異なっており、生産活動面で平均的な集落は生活活動面において発展した活動展開がなされている。

次に、基幹的な農家の割合が高いB3、B4においては、地域の文化的な資源の維持・保全に対し、能動的に活用している集落はあまり見られない。また、B4は、生産活動面においても、農家集団として様々な活動を行っていない。B4と同様に畑作経営型で家の後継者は多い離農化タイプのB6では、生産活動の側面において、実施した活動はあまり多くはないが、自然環境を活かした住民活動の展開やお祭や住民の楽しみ行事を多く活用している。以上の様に、地域活動の実施状況と農家後継者の保有状況との関係として、農業経営の後継者が多くいる集落においては、集団的な活動展開が低位であるのに対し、離農化が進んでいるが家の後継者は多くいる集落では、生活活動面において様々な内容の能動的な地域活動が行われている。

2-3 活用資源類型からみた地域活動の実施状況

活用資源類型（G類型）の特徴として、地域資源の賦存状況が非常に低位なG5や地域行事や組織等の地域資源の活用がなされていないG1では、生産活動と生活活動の両側面において、能動的に地域活動を実施している集落が少なく。平均的な資源賦存状況を示すG2や多くの地域資源を保有しているG3では、地域活動の実施状況に関しても平均的であり、G2に関しては、地域の伝統技能・技術が現在は無くなっているが、復活させたいと考えている集落が多く見られ、G3は、施設・空間整備に対して能動的に活動している。地域組織や行事を多く保有しているG4では、お祭に子供と若者の両方に役割を与え、地域の後継者として育成している集落が多い。以上より、社会的な資源である地域組織や行事を多く保有している集落では、多くの側面で能動的な地域活動を行っているのに対し、動植物等の自然環境が豊富に存在していることを認識している集落では、その様な自然環境を活かした地域活動を実践している集落は少ないことから、自然環境の側面においては、存在を認識することと環境を活かした活動展開とは関連性があまりみられない。

表3 賦存資源類型毎にみた地域活動の実施状況

		人材資源類型					農業資源類型					活用資源類型						
		A1	A2	A3	A4	A5	B1	B2	B3	B4	B5	B6	G1	G2	G3	G4	G5	
農業生産活動における地域活動状況	衛生例規技術	行政のみの支援	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		農家同士で実施	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		行政と農家の双方	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽
		特になし	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		行政のみの支援	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	の経営向上	農家同士で実施	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
		行政と農家の双方	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
		特になし	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		行政のみの支援	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		農家同士で実施	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
の基盤整備	行政と農家の双方	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
	特になし	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	行政のみの支援	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	農家同士で実施	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
	行政と農家の双方	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
の労働時間	特になし	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	行政のみの支援	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	
	農家同士で実施	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	行政のみの支援	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	農家同士で実施	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
共有施設・空間整備における地域活動状況	農業関係連携	特になし	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		行政のみの支援	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		農家同士で実施	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
		行政と農家の双方	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
		特になし	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	道路生活機能	特に何もしていない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		花や木を植えている	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		休憩場所や道路を舗装した	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		ハード整備と地域活動を実施	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		特になし	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
自然環境整備における地域活動状況	集落シンボル	花壇や池を設置	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
		遊び場所や活動空間を整備	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
		特に設備整備していない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		全員が入れる空間を確保した	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		調理施設を設置した	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	利用会	図書ｺｰﾅｰと調理施設を設置	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
		特に活用していない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		選挙時や健康診断等に利用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		地域行事等の開催・準備	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		冠婚葬祭時にも利用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地域行事・伝統技術における地域活動状況	水環境内容	集落のシンボルの花・木なし	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		シンボルにしている花がある	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		シンボルにしている花がある	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		花・木の方がある	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		何もしていない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	水辺環境	農薬や合成洗剤等の制限	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		浄化施設の設置	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		ハード整備と取り決めの両方	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		自然に近い形で整備(ビ´ﾄﾞﾞ)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		何もしていない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
祭りの役割	花や木を植えている	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	休憩所や遊び場所を整備	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	残したい源空間なし	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	残したい源空間がある	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	子供に何もさせていない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
参加者の関係	最近子供に役割を与えている	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	昔から子供に役割を与えている	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	若者に何もさせていない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	最近若者に役割を与えている	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	昔から若者に役割を与えている	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
行事の進行	特に誰も帰ってこない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	お祭りに参加してくる	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	企画や運営にも関る	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	行事が少ない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平均的に実施	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
住民全体	行事を多く実施	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	行事が少ない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平均的に実施	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	行事を多く実施	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	していない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
伝統技術	行っている	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	現在はない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	無くなったが残したい	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	集落の行事として実施	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	周辺集落まで距離の場を広げた	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
伝統技術	都市交流に活用している	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	現在はない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	無くなったが残したい	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	家の中だけで伝えている	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	集落の中だけでの伝えている	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
伝統技術	他の地域にも広める活動を実施	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	現在はない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	無くなったが残したい	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	家の中だけで伝えている	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	集落の中だけでの伝えている	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

凡：0.0～5.0 〇：5.0～10.0 △：10.0～20.0 ●：20.0～30.0 ◎：30.0以上
 無：0.0～5.0 -：5.0～10.0 ▽：10.0～20.0 ▽：20.0～30.0 ◎：30.0以上
 ※ 各賦存資源類型の集落類型毎の構成比と全体の構成比との差

3. 地域資源の活用状況からみた地域活動への住民参画の状況

ここでは、地域資源の活用状況から集落の類型化を行い、この類型毎に、地域活動への各世代の住民の参画状況と住民相互の役割分担の状況を捉える。

3-1 地域資源の活用状況からみた集落の類型化

まず、全集落を対象に地域資源の活用状況を示す全指標を用いて、

数量化Ⅲ類を行い、各指標の固有ベクトル値により、1～3軸までの意味付けを行った(表4)。1-2軸上における各指標の固有ベクトル値より、集落の地域活動の実施状況を表す大きな軸が2つ存在する。1つは、1、2軸で共に一側から、共に+側に向かう軸であり、その特徴として、1軸の+側、2軸の+側に位置する指標は、「お祭り時に、最近子供や若者に役を与えている」であり、原点付近では、「伝統芸能を復活させたい」や「子供やお年寄り、住民全体の行事が平均的に保有している」指標が集まり、1軸の-側、2軸の-側では、「お祭り時に、子供や若者に役を与えていない」指標が集まっていることより、地域活動の実施状況を表す軸である。2つは、1軸で-側、2軸で+側から1軸上で+側、2軸上で-側に向かう軸であり、その特徴として、1軸の-側、2軸の+側に位置する指標は、施設・自然環境整備面や地域行事の活動状況に関して消極的な指標が集まっており、1軸の+側、2軸の-側に進むにつれ、各分野で行われている地域活動の最も能動的な活動を表す指標が集まっていることより、地域資源を活用した地域活動の能動性を表す軸である。3軸は、+側に「子供のための地域行事を多く保有している」指標や「伝統芸能や工芸技術等が現在は無くなっているが、復活させたい」と考えている指標が大きく寄与し、一側に「最近子供や若者に対してお祭り時に役を与えるようになった」指標や「農家間で作業協業し、休みが取れる様にした」指標が集まっていることから、3軸の+側は地域活動に対する存続意向を示し、一側に進むにつれ地域活動の新たな展開や対策を講じ実践している集落を示す軸である。

次に、各集落の1～3軸までの集落得点値をもとに、クラスター分析により、地域資源の資源活用類型(K類型)として6つの類型に区分した(図1)。その類型間の差異は、1-3軸の集落類型プロット

表4 地域資源の活用状況の指標と固有ベクトル

指標内容		1軸	2軸	3軸	指標内容		1軸	2軸	3軸
農業生産活動における地域活動状況	研修技術				何もしていない		-0.61	1.67	0.07
	行政のみの支援	-0.20	1.56	0.46	農業や合成洗剤等の制限		-0.48	-0.65	-0.65
	農家同士で実施	-0.69	2.77	1.52	浄化施設設置		0.34	0.98	0.38
	行政と農家の双方	0.08	-0.41	-0.22	ハード整備と取り決めの両方		1.74	-0.52	1.15
	特になし	-1.20	-0.68	-0.01	自然に近い形で整備(ビオトープ)		2.01	-0.64	1.46
	行政のみの支援	0.53	0.25	-0.69	何もしていない		-0.54	0.01	-0.05
	農家同士で実施	-0.23	2.96	1.03	花や木を植えている		1.24	0.26	-0.15
	行政と農家の双方	1.25	-0.43	0.34	休憩所や遊び場所を整備		2.37	-0.65	1.03
	特になし	-1.02	-0.62	0.34	残したい源空間なし		-0.43	0.28	0.21
	行政のみの支援	1.56	0.55	-1.15	残したい源空間がある		1.12	-0.71	-0.54
	農家同士で実施	-0.49	0.76	0.18	子供に何もさせていない		-0.86	-0.52	-0.02
	行政と農家の双方	1.23	-0.70	0.11	最近子供に役割を与えている		1.26	1.72	-3.84
農業生産活動における地域活動状況	特になし	-0.10	0.05	0.28	昔から子供に役割を与えている		1.29	0.09	0.48
	行政のみの支援	-0.06	1.92	0.07	若者に何もさせていない		-1.06	-0.51	-0.06
	農家同士で実施	1.17	-0.12	-3.02	最近若者に役割を与えている		1.04	1.63	-2.61
	特になし	-0.63	-0.06	0.21	昔から若者に役割を与えている		1.08	0.05	0.50
	行政のみの支援	1.08	0.25	-1.42	特に誰も帰ってこない		-0.77	0.03	0.18
	農家同士で実施	0.23	1.28	0.58	お祭りに参加してくる		0.97	0.10	-0.47
	行政と農家の双方	2.15	-0.66	1.40	企画や運営にも関与		2.12	-0.71	1.01
	特になし	-0.93	-0.21	0.03	行事が少ない		-0.80	0.09	0.31
	花や木を植えている	0.58	1.22	0.13	平均的に実施		0.98	0.27	-1.11
	休憩場所や道路を舗装した	-1.08	-1.74	-0.78	行事が多く実施		2.45	-1.78	2.42
	ハード整備と地域活動を実施	1.68	-1.10	0.67	行事が少ない		-1.02	0.03	0.33
	特に整備していない	-0.35	-0.11	-0.08	平均的に実施		0.45	0.47	-0.92
共有施設・空間整備における地域活動状況	花壇や池を設置	0.59	1.54	-0.07	行事を多く実施		1.51	-0.81	0.90
	遊び場所や活動空間を整備	1.03	-0.26	0.38	行事が少ない		-0.72	0.13	0.02
	特に設備整備していない	-0.14	1.70	0.71	平均的に実施		0.68	0.82	-0.59
	全員が入れる空間を確保した	-0.87	0.03	0.10	行事を多く実施		2.06	-1.36	0.64
	調理施設を設置した	0.52	-0.42	-0.08	していない		-0.10	1.44	0.45
	図書・ナと調理施設を設置	1.55	0.12	-0.60	行っている		0.02	-0.33	-0.10
	特に活用していない	-0.52	1.50	0.42	現在はない		-0.90	-0.01	-0.41
	選挙時や健康診断等に利用	-0.09	0.50	0.52	無くなったが残したい		0.33	-0.21	2.27
	地域行事等の開催・準備	-0.08	-0.85	-0.42	集落の行事として実施		1.32	0.44	-0.58
	冠婚葬祭時にも利用	1.18	0.31	-0.28	周辺集落まで活躍の場を広げた		0.89	0.58	-0.33
	集落のシンボルの花・木なし	-0.41	-0.01	-0.20	都市交流に活用している		1.38	-2.39	1.34
	シンボルにしている木がある	1.35	1.05	-1.62	現在はない		-0.07	1.35	0.08
集落のシンボル	シンボルにしている花がある	-0.04	-0.14	1.10	無くなったが残したい		0.56	-0.49	2.03
	花・木の両方ある	1.70	-0.40	1.47	家の中だけで伝えている		-1.49	-1.76	-0.38
					集落の中だけで伝えている		0.28	-0.67	-0.30
					他の地域にも広める活動を実施		1.40	-0.25	0.19
					固有値		0.27	0.13	0.11

図において、地域活動の展開方法の違いを表す2つの方向性を示す軸に沿って、それぞれ能動的な地域活動の実施状況を示す3つの段階により区分される。K1は地域活動の能動性の序列が低位で、地域活動をあまり実践していない集落である。K2も同様に能動性が低位で、農家間による生産技術・環境の充足化が図られているが、生活環境面での活動がなされていない。K3は地域活動の能動性が中位で、伝統芸能・技術等の文化的な資源を保全したいが現状では出来ない集落。K4も同様に能動性が中位で、生産環境面で主に行政からの支援を多く受けている集落。K5は地域活動の能動性の序列が高位で、既存の地域資源の活用だけでなく、新たな地域活動にも前向きな姿勢を示す集落である。同様に、K6も序列が高位で、地域行事等を多く保有し住民の楽しみ活動を能動的に実践している集落である。

3-2 地域資源の資源活用類型毎にみた住民の活動参画状況

前記で区分した地域資源の資源活用類型毎に、地域活動への各世代の住民の参画状況や集落独自の取り組み方の特徴を明らかにする。この時、各集落で一様に実施している地域活動を取り上げる。そのため、把握した地域活動の内容は、農業生産活動として、各世代層の農家が現在、集落農業の活性化に向け、どのような階層の農家同士で農業経営を実践しているかについて明らかにする。生活面における地域活動として、地域の楽しみ活動である地域行事とお祭りの企画・運営における地域組織の役割や各世代層の参加状況を捉える。加えて、清掃管理活動に対する各世代層の参加状況とその取り組み方を集落生活道路と集会所の清掃活動により把握する。

集落農業の活性化に向け、各世代の農家がどのような方法で農業経営を行っているかを把握した結果、地域活動の能動性において序列が低位なK1やK2では40・50代の中年層の多くは、個々の農家に

図1 地域資源の活用状況のデンドログラムとサンプルプロット図

よる生産性の向上を目指した個別経営を実践している(図2)。能動性の序列が中位のK4、上位のK5、K6は、個々の生産性をあげることはもとより集落全体で生産性の向上を目指した生産活動を実践している。以上の様に、現在の集落農業の中核的な存在である40・50代の農家が個々の生産性の向上のみを目指している集落では、生活面での能動的な地域活動が成されていない。

子供のための行事を企画する段階での住民同士の話し合いの持ち方について捉えた結果、能動性の序列が下位のK1やK2では、集落全戸で話し合っている集落はほとんど無く、主に子供を持つ親だけで話し合いが成されている(図3)。その他の類型においては、子供も一緒に話し合いに参加している集落や集落全戸で企画している集落が多い。次に、集落住民の多くが楽しみに、活動している行事については、能動性の序列が中位のK4や上位のK5、K6では、行事毎に実行委員会を形成している。また、お祭り時と同様に、青年層が参加する組織や子供会も企画の段階から参加させている。つまり、能動的な地域行事を実践する際には、子供達や若年層に役割を分担させ、地域活動に参加させることが重要な計画要件となる。

お祭り時において、その運営に関与している地域組織と各世代層の参加状況について把握した結果、能動性の序列が上位のK5、K6では、他の類型に比べ、若者層が加入する消防団や青年会、子供会がお祭りの運営に携わっている(図4)。また、他の世代に比べ、比較的に参加が得られていない20・30代も含め、各世代層の住民が主体的に参加している。能動性の序列が下位のK1では、主にお祭りの運営に携わっている地域組織は自治会のみであり、どの世代層においても、参加してくる人がほとんどいない。この様に、地域活動において能動性の低い集落では、祭りの運営に対して自治会以外の組織がほとんど関係せず、一部の世代の住民しか参加してこない。能動性の序列が中位であるK3、K4では、どの世代層も同じ様な割合で参加しているものの、参加の姿勢において大きな違いが見られ、K4の場合は小中学生や20・30代の若い人達に対して義務的な方法により参加させているのに対し、K3の場合は特に参加する義務は無いがみんな主体的に参加してくる集落の割合が高くなっている。

生活道路の清掃活動に関しては、能動性の序列が下位のK1では、集落として清掃活動を実施している集落が少なく、更に、実施している集落においても、40・50代の男性が主にその役割を担い、他の世代の参加があまり見られない(図5)。また、能動性の序列が上位のK5、K6では、積極的に住民が参加している集落が他の類型に比べ多く、特に小・中学生や20・30代の若者層が多く参加している。

集会所の清掃活動に関しては、能動性の序列が中位のK4や上位のK5では、主に女性が役割を担い清掃活動を行っている集落が他の類型に比べ多い(図6)。また、K4やK5、K6では、各戸から一人参加することになっている集落や班毎に当番性にし、多くの住民に役割や義務を与えている。

以上の結果より、地域活動への能動的な住民の参加を得るためには、集落に存在する地域組織を通じて、各世代層の住民に役割を与えることが重要な計画課題となる。また、生産活動面において個別化の意向の強い集落では、生活面での地域活動においても消極的な活動展開を示しているが若年層農家は集団による生産性の向上を目指しており、今後は、生活活動における集団化を図り、地域社会を活性化することが重要となる。

図2 地域資源の資源活用類型からみた世代別経営方法

図3 地域資源の資源活用類型からみた地域行事の運営方法

図4 地域資源の資源活用類型からみたお祭り時の住民参加状況

図5 地域資源の資源活用類型からみた道路清掃への住民の参加状況

図6 地域資源の資源活用類型からみた集会所の清掃方法

4. 地域資源の賦存資源類型毎の能動的な地域活動実践に向けた集落誘導方向

ここでは、人材資源類型（A 類型）、農業資源類型（B 類型）、活用資源類型（G 類型）の 3 つの賦存資源類型毎に地域資源の資源活用類型（K 類型）との関係を把握し、計画目標となる集落の選定と誘導方向を求める。この時、3 章で求めた資源活用類型（K 類型）のサンプルプロット図の中に、A・B・G 類型の各集落特性に対応している資源活用類型を布置した。

4-1 人材資源類型毎の集落誘導の方向性

1-3 軸の各類型の分布特性により、人材資源類型の誘導方向を求

図7 地域資源の資源活用類型における人材資源類型の誘導方向

図8 地域資源の資源活用類型における農業資源類型の誘導方向

図9 地域資源の資源活用類型における活用資源類型の誘導方向

める（図 7）。A1 類型に属す集落は、1 軸上で+側に大きく寄与する K5 と K6、加えて 3 軸の-側に寄与し、能動性が中位な K4 に該当する集落がそれぞれ 1 集落存在し、能動性の下位と中位に占める集落の割合が高いことから、集落個々の全体的な底上げを目指す必要がある。A2 類型は、K4 が他の人材資源類型に比べ 1 軸上で上位に位置し、能動性が上位の K5 に隣接し、分布している。それにより、K4・K5 と K1 類型との間に能動性が中位の集落が存在せず、1 軸上で集落が離れて分布している。3 軸の+側に位置する K2、K3、K6 においては、段階的に 1 軸の+側に遷移する。A3 類型については、能動性が下位の K1 と K2 に該当する集落が他の人材資源類型に比べ 1 軸上の原点付近に位置し、序列が下位の集落はほとんど存在していない。このことより、現状の地域活動の能動性を維持していくことがどの集落においても必要となる。A4 類型は、3 軸の+側に位置し、能動性が中位の K3 が下位の K2 付近に存在し、上位レベルの K6 と離れて分布している。3 軸の-側では、K1、K4、K5 が段階的に遷移し分布している。A5 類型に関しては、ほとんどの集落が 3 軸による影響を受けず分布していることより、K1、K2、K3 類型に該当する集落は、能動性を高めるための地域活動をより多く実践していく必要がある。

4-2 農業資源類型毎の集落誘導の方向性

前記と同様の方法を用いて、農業資源の各類型の誘導方向を求める（図 8）。B1 類型と B2 類型に関しては、3 軸の+側と-側の両面において能動性が下位の集落から上位の集落まで均等に分布していることより、各軸上の能動的な地域活動を行っている K5、K6 が誘導方向の目標となる集落になる。B3 類型については、K4 や K5 が 3 軸の-側に大きく寄与せず、更に、K2 は能動性が同じく下位の K1 より 1 軸上で上位に位置していることより、能動性が下位の集落は K1、

K2の順に遷移する。B4類型に関しては、K3、K4、K5に該当する集落は無く、K6においても1集落だけ存在している。このことより、該当集落の全てにおいて能動性を高めることが必要である。B5類型は、K1集落に該当する集落は無く、3軸の+側においては、K2、K3、K6が段階的に分布している。B6類型は、K5に該当する集落は存在せず、更に、1軸上で+側、-側の両側面に大きく寄与する集落も少ない。このことは、各類型間において地域活動の能動性に大きな違いが見られず、どの集落も平均的な能動性を示している。

4-3 活用資源類型毎の集落誘導の方向性

同様に、活用資源類型の各類型の誘導方向を求める(図9)。G1類型に関しては、1軸の+側に大きく寄与する集落は存在せず、全体的に地域活動の能動性において中位と下位に位置付けられる集落がほとんどである。G2、G3、G4類型のそれぞれが同様に、3軸の+側と-側の両面において能動性が下位の集落から上位の集落まで均等に分布しており、各軸上の能動的な地域活動を行っているK5、K6が誘導方向の目標となる集落になる。G5類型は、能動性が下位のK2集落は多いが、1軸上で同様に-側に位置し、能動性が下位であるK1集落が存在していない。また、他の類型に比べ、3軸の+側に寄与するK6類型に属する集落が3軸の-側に寄与していることより、誘導目標としてK5に向けた能動的な地域活動を実践する必要がある。

5. 結論

本研究のまとめとして、以下のようなことが求められた。

- ①若年層を中心とした住民の定住状況と能動的な地域活動の実践状況とは相関関係にあることが求められた。その内容として、能動的な地域活動を実践している集落では、Uターン者や農家後継者を多く確保している。対照的に、離村者や高齢者独居世帯が増加し、人材の確保が難しくなっている集落では、地域活動をあまり能動的に実践できていない傾向にあり、再度既存の集落に賦存する資源に対する認識を住民自らが高めていくことが求められている。
- ②集落農業資源の賦存状況と地域活動の実践状況との関係として、畑作経営や果樹経営型の集落では、地域活動の実践の程度が低い集落が多く存在している。更にその様な集落の特徴として、生産活動面において、中年層や高齢層農家の多くは、農家個別で生産性向上を目指しているのに対し、若年層農家は、同世代や同経営作物の農家の人達と共に集団での生産性向上を目指している。しかし生活活動面においても同様に、若年層の人々の活躍する場は少なく、人間関係を形成し得る場や機会が集落内で整備されていない傾向を明らかにした。今後は、現在までの農家個別の生産性の向上だけでなく、集落全体で楽しむことができる祭りや新たな地域行事など、集落全体で集団化を形成しうる生活活動の充実が必要となる。
- ③地域活動における住民各世代層の参画状況と集落独自の取り組み方を捉えた結果、多世代の住民が、様々な地域活動に参加し、更に、地域行事の企画段階から子供や若年層を参画させている集落では、積極的な地域資源活用がなされていることが明らかになった。従って、住民の能動性を引き出すためには、各世代層それぞれに役割を担わせる地域活動を企画・運営することが必要となる。
- ④地域資源を活用した地域活動の実践内容の違いにより、能動的な地域活動の実践化に向けた集落の誘導方向となり得る2つの方向性が求められた。一つは、集落に賦存している地域資源を維持・保全

することを希望しているものの消失傾向にある集落とその序列上位の集落として地域の文化的な資源を活かして都市農村交流等に発展させている集落との共通・相違点から、地域資源の必要性や重要性は共に認識しているものの、後者の場合は新たな資源利活用の展開により地域活動の促進を図っている。二つは、地域活動の維持・保全に際し、今まで主体的な参画を促していなかった子供達や若い人に対して積極的に地域活動に参画させ集落の活性化に努めている場合である。すなわち、課題に対する対策として住民間で欠落・消失した部分を補い、維持・活用している方向である。この様に、地域活動に対する人々の能動性を引き出す要素として、既存の地域資源を見直し、新たな活用展開を求め、地域活動へ参画の態度志向が低い若年層や子供層を如何に参画させるかが重要な計画要件となる。

<注>

- 1) 藍澤宏ほか、集落立地類型からみた地域資源構造と集落誘導の方向性 農村地域における地域資源からみた集落誘導に関する研究その1、日本建築学会論文報告集、No484、137-146、1996.6
- 2) 藍澤宏ほか、一般集落と推奨集落との相違からみた地域資源による集落誘導 農村地域における地域資源からみた集落誘導に関する研究その2、日本建築学会論文報告集、No507、143-149、1998.5
- 3) 藍澤宏ほか、中山間地域における居住者の地域資源評価からみた集落の誘導要件 農村地域における地域資源からみた集落誘導に関する研究その3、日本建築学会論文報告集、No518、197-203、1999.4
- 4) 藍澤宏ほか、農村地域における地域資源の賦存状況からみた資源分布構造に関する研究、日本建築学会論文報告集、No548、145-152、2001.10
- 5) 地域資源の賦存状況からみた集落の類型化は、既往論文の農村地域における地域資源の賦存状況からみた資源分布構造に関する研究において求めた、人材資源類型(A類型)、集落農業資源類型(B類型)、活用資源類型(G類型)であり、集落の特性を表す属性として使用している。
- 6) 注4の既往研究で求めた、人材資源類型、農業資源類型、活用資源類型の各集落類型の特徴は以下に示す通りである。
 拡大家族やUターン者等の若年層を中心とした人材確保の状況と離農者等の状況を指標として、類型化した人材資源類型(A類型)の各集落類型の特徴は、A1は人口・世帯の変化が小さく、一時的な帰省者も少ない集落である。A2は人口・世帯の変化が小さいが一時的な帰省者が多い集落である。A3は人口・世帯の変化が平均的であるがUターン者等の集落定住者が多い集落。A4は離農者や離村者が多く一時的な帰省者も少ない集落。A5は高齢者独居世帯が増加しているが一時的な帰省者が多い集落である。
 農業就業人口の年齢別構成や生産農地の活用状況を指標として、類型化した農業資源類型(B類型)の特徴は、B1は保有労働力が平均的で稲作経営型の集落。B2は基幹農家の割合が高く第1種兼業農家が多い稲作経営型の集落。B3は専業農家の割合が高く複合経営を行う果樹経営型の集落。B4は農家後継者の多い単一作物による畑作経営型の集落。B5は保有労働力が少なく第2種兼業農家が多い集落。B6も保有労働力が少ないが、家の後継者は多い離農化タイプの畑作経営型の集落である。
 施設資源から集落共有施設や広場等の整備状況、自然環境資源から自然空間の維持・管理状況や動植物の認識状況、文化伝統資源から地域行事の実施状況や文化伝統技能・技術の保全状況、組織資源から自治会の活動状況と年代別生活組織や農業関連組織の保有状況、以上4つの地域資源の賦存状況を示す指標を設定し、類型化した結果、G1は地域組織や行事等の文化伝統資源の活用が低位であるが、自然環境に対する認識度は高い集落。G2はほとんど全ての地域資源において平均的な認識を示す集落である。G3は地域組織や行事を多く保有し、更に自然環境の保全にも努めている集落。G4は地域組織や行事は多く保有しているが自然環境に対する認識は平均的である集落。G5はほとんど全ての地域資源においてその認識状況が低位である集落である。

<参考文献>

- 1) 石川宏之ほか、地域資源に対する川崎市民の保全意識の形成に関する調査研究、日本建築学会技術報告集、Vol. No. 10、203-208、2000.6
- 2) 渡辺兵力、農業集落論、龍溪書舎、1978
- 3) 目瀬守男、地域資源管理学、明文書房、1990
- 4) 今村奈良臣ほか、地域資源の保全と創造、農山漁村文化協会、1995
- 5) 西村甲一、むらの実態と生活構造、農林統計協会、1977
- 6) 鶴見和子、内発的発展論の展開、筑摩書房、1996

(2001年9月10日原稿受理、2002年2月14日採用決定)